
好きだった冬の香り

横梅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

好きだった冬の香り

【Nコード】

N0505P

【作者名】

横梅

【あらすじ】

高校で海外留学を試み全く未経験からのスタート切る。さまざまな経験を積み成長していく一人の男の物語。そしてその結末は・・・

旅立ち

1章 旅立ち

異国の地カナダ、今日も俺は楽しくすごしている。

今俺は16歳。

15歳の春中学校を卒業して一週間後に留学という形でこの地に来た、英語なんて中学の時

勉強した程度、むしろ真面目に勉強していたわけでもない。留学を決めたのも卒業3ヶ月前と唐突だったのだから。

なぜそんな俺が海外留学を？友人、家族、当時の担任の先生、親戚中が驚愕した事件だった。中学3年生、ほとんどの生徒が進路に悩む、俺もかつてその一人だった。

どの高校に進学するかを迷っていた、とは言うものの迷うほど選択肢が多かったわけじゃない、偏差値の低い俺だ当然行ける学校のほうが少ない、だが世間一般で言われるバカ学校には行きたくない、そんな身の程知らずでわがままな事で悩んでいたのだ。

んな時一人の友人が海外留学の話をぶらりと持ってきたのだ、俺はこの男が留学をすることは前々から知ってはいたが我関せずという感じだったがこの日進路に迷っている俺を見て言ったのだ。

それならカナダに留学すれば？

こいつはいきなり何を言っているんだと始めは思った、だがすぐにそれも悪くないと思い話を聞き続けた。話によるとカナダは治安もよく高校生までは義務教育で入試はない、その二つのキーワードで

俺の心は決まった。その日俺は早速親に留学のことを告げた。

何考えてんだ！英語も話せない海外に行ったこともない奴がいきなり海外？しかも高校に入る？

親は当然猛反発、何を言っても聞く耳もたずと八方塞がりであった。しかし俺も引き下がるつもりはなかった、もう俺の中に日本の高校に進学するなんて気持ちは全くなかった。そんなある日ある友人の親がその話を聞いて俺に言ってくれた。

口に十と書いて叶うと書くんだ、何度も真剣に言えば真剣な分願いは叶うよ。

この言葉に勇気をもらい毎日毎日親に海外行きを頼んだ。するとある日親が若干あきらめた顔つきで条件を出してきた、条件とは日本での高校入試だ。そこに合格できたら海外行きを認めると言うのだ。その高校は当時の俺の偏差値でも十分合格出来るレベルであった。

そして俺は見事高校入試を突破しカナダ留学への切符を得た。

2000年3月15日俺は成田空港の出発ロビーで家族、友人たちに見送られ搭乗ゲートを潜った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0505p/>

好きだった冬の香り

2010年12月10日05時30分発行